

施策No.	政策名	豊かな心と生きがいを育む教育・文化づくり	主管課	生涯学習課
302	施策名	生涯学習・芸術文化活動の推進	関係課	学校教育課

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	市民	①桜川市人口		人	見込値			45,122	44,571	44,020	43,190	42,571
実績値					46,575	45,673	45,105	44,449	43,826	43,190	42,651	
見込値												
実績値												
的	施策の意図	成果指標名	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	生涯にわたって自ら学ぶ、学びあう	①日頃学習活動をしている市民の割合	%	目標値			25.5	26.0	27.0	28.0	29.0	30.0
実績値				25.2	23.5	22.3	24.8	22.8	22.5	25.1		
②生涯学習活動を通じて学びあっている市民の割合		%	目標値			42.0	42.0	42.0	42.0	42.0	42.0	
			実績値	45.0	36.8	46.6	44.1	49.0	45.6	49.7		
成果指標設定の考え方												
成果指標の把握方法と算定式等	○①対象の人口は、毎年10月1日の常住人口。 ○②生涯学習活動を通じて学びあっている市民の割合は、①の日頃学習活動をしている市民の内数でアンケートの「桜川市民に教えている」と「桜川市民から教わっている」の計。											

2. 施策の役割分担と状況変化

役割分担	1)住民(事業所、地域、団体)の役割(住民や地域、行政と協働でやるべきこと)	2)行政の役割(市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
	○生涯学習や文化活動に積極的に参加し、知識・見聞を深める。 ○市民講座等の講師となり、市民同士の学びの輪を広げる。	○生涯学習や文化活動施設の充実や生涯学習情報の提供により、市民の学習・文化活動を支援する。 ○各種広報活動や文化講演会の開催により、市民の学習・文化活動に対する意識啓発を図る。 ○市民同士の学びの輪を広げるため、市民講座の講師などの人材を育成・確保する。
状況変化	3)施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は今後どのように変化するか?	4)この施策に対して住民、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?
	○余暇を利用して学習活動する部分があるので、景気の影響を受ける。 ○生涯学習、文化活動の拠点として整備された真壁伝承館の利用ができるようになり、活発な活動につながると考えられる。 ○現在活動している市民が高齢化している。 ○文化協会では、子どもたち(出前教室)を取り込む取組みを実施している。 ○活動がマンネリ化している現状もある。講座を企画募集しても集まらない。結果従来型の講座となる。 ○文化協会は、今後部会制にすることで、会員同士の連携・交流が深まり、活動の幅が広がる事が期待できる。	○市民アンケートの満足度、優先度調査の結果、満足度はやや高く、優先度は低い位置となっている。 ○自主講座を行う会場が少ないとの意見がある。

3. 基本事業の目的と指標

基本事業名	対象	意図	成果指標	区分	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
①生涯学習及び芸術文化活動機会の充実	市民	学習の機会を充実させる	指定講座の数(自主講座以外)	実績値	35	25	28	31	29	26.0	
				講座							
②生涯学習及び芸術文化活動の促進	市民	学びあう	自主講座数	実績値	148	148	137	106	104	106	
				講座							
③生涯学習・文化施設の充実	市民	利用しやすくする	施設の利用人数 (伝承館・岩瀬公民館・大和公民館・改善センター・3分館)	実績値	77,960	85,329	106,941	98,623	95,556	100,574	
				人							

4. 施策のコストの実績(施策を構成する事務事業シートより積算)

項目	単位	26年度実績	27年度実績	28年度予算
①本施策を構成する事務事業の数	件	36	28	28
②施策事業費(一般財源以外)	千円	4,658	6,594	922
③施策事業費(一般財源)	千円	66,209	70,517	79,710
④施策事業費の計(②+③)	千円	70,867	77,111	80,632
⑤施策人件費(事務事業の人件費合計)	千円	63,996	41,526	40,436
⑥計(④+⑤)	千円	134,863	118,637	121,068

5. 施策に関連する主要事業等

区分	事務事業名	摘要
主要事業	図書館整備事業	後期基本計画主要事業
事務事業	市民文化祭事業	H27貢献度上位、H28優先度上位
事務事業	桜川市文化協会助成事業	H27貢献度上位、H28優先度上位
事務事業	こども伝統文化教室	H27貢献度上位

施策番号	302	施策名	生涯学習・芸術文化活動の推進	主管課	生涯学習課
------	-----	-----	----------------	-----	-------

6. 施策の成果水準とその背景・要因

1)-①現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から学習活動をしている市民の割合は、23年度22.3%、24年度24.8%、25年度22.8%、26年度22.5%、27年度は25.1%と推移している。 ・地区別に見ると、学習活動をしている市民は、岩瀬地区は横ばいでしたが、真壁・大和地区では増加している。 ・生涯学習講座数(指定講座)については、26講座実施しているが、地区別にみると岩瀬地区13講座、真壁地区5講座、大和地区8講座である。 ・生涯学習講座数(自主講座)については106講座実施している。地区別に見ると岩瀬地区が77講座、真壁地区15講座、大和地区14講座となっている。岩瀬地区において他地区より多いのは、公民館における研修室が充実しており、学習機会が比較的多いこと、また、従来から定期講座が多くあり、講座がきっかけのサークル活動も増えていったためと思われる。また、受講者が固定化してきている面がある。 ・文化協会加入団体は62団体、高齢化に伴い退会する団体も多いが、公民館の自主講座から加入した団体もあり、横ばいである。 		

1)-②成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値を大きく上回った	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてが上回った	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った
	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> すべての成果指標で目標値を下回った
背景・要因	<ul style="list-style-type: none"> ①日頃学習活動をしている市民の割合は、前年度比2.6ポイント増加したが、27年度目標値29%に対し25.1%と3.9ポイント下回った。 ②生涯学習活動を通じて学びあっている市民の割合は、27年度目標値42.0%に対し49.7%と7.7ポイント上回った。 		

2)他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか低いのか、その背景・要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり高い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば高い水準である	<input checked="" type="checkbox"/> 他の自治体とほぼ同水準である
	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば低い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり低い水準である	
背景・要因	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習活動をしている市民の割合は、前年度比2.6ポイント増加したことは、少しづつ市民の文化活動・学習活動意欲が向上したと思われる。各中央公民館等の各種施設の老朽化もあり、市民の要望に十分に答えられていない点もあると思われる。 ・後期総合計画策定時におけるアンケート調査では、この施策の満足度はやや高いが、優先度は平均よりかなり低く、現状維持項目となっている。各種事業に参加している市民は満足しているが、学習活動をしている市民が少ないと理解できる。 ・平成27年度市民文化祭は同じ分野を一会場で開催することができ、部門別のまとまりが深まった。 ・市民文化祭の中心を担う文化協会の再編も踏まえて、部門での結びつきを強化し、同じ部門の交流や連帯感を強化し意識を高め充実した文化祭ができるよう改革していく。 		

3)住民の期待水準との比較(住民の期待よりも高い水準なのか 同程度なのか、低いのか)、その他の特徴は?

実績比較	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり高い水準である	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば高い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待とほぼ同水準である
	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば低い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり低い水準である	
背景・特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習活動をしている市民割合は、前年度比2.6ポイント増加したことは、少しづつ市民の文化活動・学習活動意欲が向上したと思われる。各中央公民館等の各種施設の老朽化もあり、市民の要望に十分に答えられていない点もあると思われる。 ・後期総合計画策定時におけるアンケート調査では、この施策の満足度はやや高いが、優先度は平均よりかなり低く、現状維持項目となっている。各種事業に参加している市民は満足しているが、学習活動をしている市民が少ないと理解できる。 ・平成27年度市民文化祭は同じ分野を一会場で開催することができ、部門別のまとまりが深まった。 ・市民文化祭の中心を担う文化協会の再編も踏まえて、部門での結びつきを強化し、同じ部門の交流や連帯感を強化し意識を高め充実した文化祭ができるよう改革していく。 		

7. 施策の成果実績に対しての、これまでの主な取り組み(事務事業)の総括

前年度の取組状況と課題	<p>27年度は「生涯学習・芸術文化活動に取り組んでいる人」を重点対象として、「芸術文化に親しむ機会がある」を重点的に取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・桜川市文化協会助成事業では、文化協会結成10周年にあたり記念座談会を開催した。毎年発行している「文化協会だより」も10周年記念号として、ページ数を増やし今までの歩みを振り返ると共に、各種の活動の様子や今後の方針を発信することができた。また、平成27年度も、短歌・俳句・書道の出前講座を実施し好評だった。 ・子ども伝統文化教室では、新たに囲碁教室が開催されるなど、伝統文化の継承に力を注いでいる様子が伺える。文化祭や分館祭などに成果発表をする機会を提供した。 ・市民文化祭事業では、芸術文化活動の一環として、市民に発表の場を提供する。実施時期は10月中旬～11月上旬で、桜川市文化協会が中心となり12の催事を開催している。近年来場者も増加してきている。 ・雨引の里と彫刻展事業において、旧大和村に創作活動の拠点を置く彫刻家たちを中心に40名の作家が出展。今回は市制10周年に併せ、市と共催。旧真壁地区、旧岩瀬地区を含めたりんろード沿線に石材、金属等から生み出した作品を展示。旧大和地区以外の方々にも活動を周知してもらい知名度も上がってきている。今後、作家との交流を持つ機会を増やせれば理解も深まる。(来場者数 1,660人、展示会場来場者数 約5,000人)
-------------	--

8. 総合計画後期基本計画(H24～)の振り返り

区分	これまでの取組成果	今後の課題(未着手の事業、未達成の理由など)	今後の方針
施策全体	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術文化に親しむ機会がある・活動できる機会を提供することを重点的に取り組んできた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から生涯学習活動をしている市民割合は、前年度比2.6ポイント増加しているが、岩瀬・大和中央公民館等の各施設の老朽化が懸念される。23年度に真壁伝承館が完成したことから、新しい施設の活用など有効に活用できるソフト面の基盤整備を進める必要がある。また、市民の半数が何らかの学習活動をする状況を目標とし、さらに、30・40歳代の子育て世代に対しても、「家庭教育」関係の学習活動をサポートする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもから高齢者までだれもが自ら学び、その成果を活かせるよう、生涯学習の施設整備・機能を充実させるとともに、公民館講座や自主活動等の機会拡充、地域の関連団体の育成等に努めます。 ・芸術・文化活動については、既存の文化施設や地区公民館等を活用し、市民の活動を支援するほか、様々な音楽・演劇等の芸術活動にふれる機会の充実に努めます
基本事業	①生涯学習及び芸術文化活動機会の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・市民・各種団体等とのニーズにあった講座の開設・場の提供に努めた。 ・市民文化祭において、公民館利用団体にも参加を呼びかけ、成果発表の場を作った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の実情や市民のニーズにあった講座等の充実など、生涯にわたって市民らが自ら学べる場を提供することが必要である。 <p>市民ニーズに応じた講座・教室・イベントを開催し、市民が自ら学びたい環境づくりを推進します。また、芸術文化活動の成果発表の機会を提供するとともに、優れた芸術文化に触れる機会を充実します。</p>
	②生涯学習及び芸術文化活動の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・文化協会会員の高齢化が進み組織が硬直化してきていることが課題であった。合併以来、旧町村単位での組織だったが、平成27年度一年間をかけて、同じ分野でのまとまりで部会を作り活動できるよう組織の再編成に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新組織として、同じ分野のまとまりである、部会毎の交流事業が実施され、一体化した活動の促進が図れることを期待できる。 <p>一緒に学ぶ仲間づくりや自主的な活動を促進します。また、文化祭など芸術・文化活動などの成果発表の機会を提供し、個々の活動の情報発信を行い、市民の芸術文化活動に対する意欲を高める取り組みを支援します。組織再編成をすするとともに、団体の活性化及び指導者の育成を図っていく。</p>
	③生涯学習・文化施設の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・各施設の整備、利用の向上に努めた。 ・図書館等の整備、相互の連携向上により施設の有効活用、市民の利便性向上に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書システムの整備による真壁伝承館真壁図書館と既存図書室の連携向上とともに、図書施設の充実が求められている。 <p>図書館の整備・生涯学習施設の整備を進めるとともに、図書システムの導入(岩瀬・大和中央公民館)市民の利便性向上に努めます</p>